（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令 和 7 年 度 学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 滑川町立宮前小学校 ）

目指す学校像	子供たちの笑顔がいっぱいの学校

重 点 目 標	1　学力、体力の向上 2　豊かな心の育成、基本的な生活習慣の確立 3　開かれた学校づくり（応援したくなる学校づくり） 4　教育の質の向上を図る働き方改革

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者　学校関係者　　7名
　　事務局(教職員)　2名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学　校　自　己　評　価								学　校　関　係　者　評　価
年　度　目　標					年 度 評 価 （ ２月１日 現在 ）			実 施 日　令和８年２月２０日
番号	現状と課題●	評価項目	具体的方策（◎重点）	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	○授業規律や学習意欲・態度については、概ね良好である。 ●学習指導要領の主旨を踏まえた指導実践と改善を重ねて充実していくことが課題である。 ●各種学力調査結果を活用した授業改善を一層推進する必要がある。 ○新体力テスト総合評価上位３段階（Ａ＋Ｂ＋Ｃ）の割合は、78.1%である。（令和6年度） ●体づくりを進め体力を高めていくことが課題である。	学力の向上 体力の向上	◎主体的対話的で深い学びを目指した授業改善を推進する。 ◎各種学力調査を活用して、自校の実態や課題に応じた学習指導を行う。 ◎児童の健康・安全を第一とし、感染症対策や熱中症対策に配慮した教育活動を行う。 ○学習内容を明確にした授業を実践する。 ○「スタディウィーク」の取組、「ターナちゃんノート」等を活用し、家庭学習の充実を実現する。 ◎運動への挑戦回数や機会を保障する体育授業と体育活動を実践する。 ○運動好きな児童を育成する体育授業を実践する。	○学校評価に係る児童・保護者対象アンケートで、「学力向上」に関し９割以上が好意的な評価をしたか。 ◎算数科の研究を推進し、学習内容を明確にした授業実践や授業改善の方略を見出すことができたか。（学校課題研究） ○体育授業において子供たちが挑戦する回数・挑戦する時間の保障に向けた取り組みを共有したか。	○「学力向上」に関する好意的な評価は、児童86.3%、保護者85.5%だった。 ○算数科の授業の進め方について、「宮小スタイル」を作成した。授業研究会は、全体研修４回・ブロック研修３回実施した。 ○体育部が中心となって、体育の授業の進め方を文書で校内に周知したり、具体的な指導法について助言したり、学年内で共有したりした。	B	○学力向上について、引き続き取り組んでいく。学力の基礎基本と共に、より深い学びの充実も目指す。 ○算数の授業の進め方の共通理解ができた。教材の見方や指導法について研修を深め、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 ○体育の楽しさを感じる授業の一層の充実に向け、指導法を学ぶ。	○授業中、児童は落ち着いて学習している。 ○基礎学力が重要。児童の理解度を把握して、ステップアップするような指導をしてほしい。 ○グループ学習が効果的であった。 ○児童の発言を上手に引き出す授業をしていた。教師の力量が問われる。 ○ベテランに、若手を支えてほしい。 ○体力向上の取組をしてほしい。
2	○自己有用感の育成は、成果が継続している。 ●傾聴の指導を引き続き継続する必要がある。 ●校外でのあいさつ、丁寧な言葉遣いに課題がある。 ○ケース会議等、関係機関と連携して対応している。 ●引き続き校内及び関係諸機関の連携強化を継続する必要がある。	豊かな心の育成 基本的な生活習慣の確立	◎保護者面談・家庭訪問・電話連絡等により、児童の心情と学習・生活の状況の把握、児童のよさを共有し、学校と家庭で見届けの充実を図る。 ○自己有用感の育成、傾聴の指導の連鎖を実現する。 ◎読書活動を推進し、児童の豊かな心を育成する。 ◎気持ちの良いあいさつに関する指導を継続する。 ◎「あたり前のことをあたり前にできる」よう、指導を継続する。（凡事徹底、時・場・礼） ◎校内ケース会議の実施による校内支援体制と指導方略の構築・共有・協働をより明確にする。 ○教育委員会・健康福祉課・保健センター・嵐山学園等関係諸機関との連携を強化する。	○児童、保護者対象のアンケートで、基本的生活習慣の確立に関し９割以上が好意的に評価したか。 ○学校自己評価で、児童像の育成に関して全職員が成果を認めたか。 ○読書名人の取組に児童が主体的に取り組んだか。 ◎校内支援体制の充実と関係諸機関との連携により、課題を解決したか。	○基本的な生活習慣の確立に関するアンケートにおける好意的な評価は、児童89.7%、保護者86.5%だった。 ○児童像の育成に関する学校自己評価は、76.6%だった。 ○読書名人の達成者は、113人だった。 ○児童の発達支援・生徒指導支援など、関係機関と連携し対応してきた。	B	○「さん」づけの推進など、一人ひとりを大切にした教育を継続する。 ○保護者との連絡は、担任・担任外で協力して行っている。引き続き、チームとして対応する。 ○読み聞かせ、読書名人、おすすめの本の紹介など、児童が本を読みたくなるような取組を継続する。 ○関係機関との連携を引き続き行う。学校だけではなく各機関の力を得て、各種指導・対応を充実させる。	○教師と児童の関係がよいと感じる。 ○児童が社会に出るときに、心が強い子に育ってほしい。 ○教室の整理整頓ができていた。 ○授業中の姿勢が崩れている児童がいるのが気になる。 ○生活習慣の確立が、学力向上につながる。
3	○見守り活動・奉仕作業・読書ボランティア・資源回収など、保護者・地域の方から多くの支援をいただいている。 ○PTAと「親路の会」による奉仕作業を複数回実施している。 ○学校公開日を設定し、保護者・地域に普段の学校の様子を見ていただく機会を設定した。 ●学校からの情報発信を継続する。	開かれた学校づくり（応援したくなる学校づくり）	○学校の方針を丁寧に説明する。 ◎スピード感のある対応を徹底する。 ○保護者や地域住民の意見や不安に教員自ら自分の言葉で応え、丁寧に説明し、合意形成を図る。 ○授業参観、学校公開日、学校行事等で学校を公開するとともに、学校だより・学年だより・学校ＨＰ等で本校の教育活動を伝える。 ○配慮が必要な児童への働きかけや懸案事項の解決に向け、関係諸機関との連携を強くしていく。	○保護者等対象のアンケートで、「開かれた学校」に関し、９割以上が好意的に評価したか。 ○地域の方々への公開を設定したか。 ○学校便り、学年便り、ＨＰなどで、本校の教育活動を知らせたか。	○「開かれた学校」に関する保護者アンケートの好意的な回答は89.1%だった。 ○11月29日（土）に学校公開日を実施し、保護者・地域に教育活動を公開した。 ○学校便り・学年便り等を用いて、本校の教育活動を周知した。 ○「すぐーる」を用いて、学校からの連絡を保護者に周知した。	A	○引き続き、健康に関すること、学校の様子など、気になることは、学校から積極的に保護者に連絡する。 ○「すぐーる」を活用し、保護者・地域との連携を図る。	○保護者への丁寧な対応が、保護者と職員の信頼関係に結びついている。 ○授業参観と学校公開の意義を明確にして実施している。 ○保護者・地域・学校関係者への連絡において、すぐーるの活用を増やしていくとよい。 ○資源回収の連絡は、町の公式ラインに協力いただくことも、検討してよいのではないか。
4	○出勤退勤時刻を把握を継続して行っている。仕事の優先順位の意識等、タイムマネジメントの意識が出てきている。 ○SSS（スクールサポートスタッフ）の活用を推進している。 ○教職員の働き方改革について、保護者等への説明・周知が進んできている。 ●時間外在校時間のさらなる削減が必要である。 ●教育の質の維持・向上のための「働き方改革」を意識し、行事の精選や教職員の意識改革を進めることが必要である。	教育の質の向上を図る働き方改革	◎時間外在校時間の目標設定から、教職員のタイムマネジメントを推進する。 ○本校の働き方会改革についての方針・取組等を、保護者・地域への様々な機会を通じて説明する。 ○ＩＣＴを活用し、教育の質の向上及び職員の負担を軽減する。 ○行事の目的と教育効果を確認し、内容等の精選を進める。 ○行事担当職員の企画・運営への挑戦を支えていく。	◎勤務負担の軽減・時間外在校時間の削減を進めることができたか。 ○ＩＣＴが教育の質の向上・職員の負担軽減に役立ったか。 ○教育の質を維持向上できたか。 ○教職員が挑戦する意欲をもって、取り組むことができたか。	○職員の計画年休取得を実施した。 ○学校自己評価に基づき業務の改善について話し合った。 ○１１月の時間外在校時間は、４５時間超1名、８０時間超0名であった。 ○タブレット、プロジェクター、デジタル教科書等を用いて授業を行った。 ○行事の目的・効果・負担等、担当と部会を中心に職員で共通理解・共通行動で進めた。	B	○時間外在校時間減少の取組を引き続き行う。 ○働き方改革への職員の参画意識を高めると共に、実効性のある取組を行う。 ○学校行事の見直し・改善を行う。	○ノー残業デーは、どれだけ実施できているのだろうか。 ○教材研究の時間が必要。持ち帰り残業にならないように、放課後の時間の確保が必要である。 ○職員が子育てしながら働けるように、少しでも早く帰ることができる雰囲気の中で働いてほしい。